

# 第33章

## アルマ43 - 51章

### はじめに

争いや不和、戦争のために、ニーファイ人の国家は滅亡の危機に瀕していた。しかし、紛争の原因はレーマン人だけではなかった。ニーファイ人の不穏分子が、権力を求めて数々の深刻な問題を引き起こしていたのである。ニーファイ人はイエス・キリストを信じる信仰を働かせ、義になかった軍の指揮官はもちろん、主の預言者に従うことによって敵に打ち勝った。

司令官モロナイの動機と意図を、アマリキヤのそれと比較してみよう。預言者モルモンは司令官モロナイについてこう書いている。「もし過去、現在、未来のすべての人がモロナイのようであれば、見よ、地獄の力でさえもとこしえにくじかれてしまい、また悪魔は決して人の子らの心を支配する力を持たないであろう。」(アルマ48:17) あなたも、たとえ困難でつらい状況下にあっても、モロナイのように「確固としてキリストを信じ」続けることができるのである(アルマ48:13)。

### 注解

#### アルマ43:2-3 「ニーファイ人とレーマン人との戦争」

• アルマ書のこの部分、つまり43章から62章で、モルモンは「戦争の話に戻ろう」と読者に注目を促している(アルマ43:3)。なぜモルモン書にはこれほど戦争の記述が多いのかと不思議に思う人もいるであろう。エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899-1994年)はこう述べている。「わたしたちは、モルモン書を読むことにより、キリストの弟子たちが戦争の時代をどのように生きたかを知ることができます。」(『聖徒の道』1987年1月号、6)

モルモンはわたしたちの時代を見ており、わたしたちが「戦争と戦争のうわさ」のある時代に生きることを知っていたため(教義と聖約45:26。黙示9章も参照)、そのような時代に義人として生きる方法を記録したのである。武力紛争に関係してきた末日聖徒は多く、これから多くの末日聖徒がこのような事態に巻き込まれるであろう。モルモンが記した福音の原則を、これら戦争の章の中から探してみよう。モルモンは戦争が与える途方もない苦しみを明らかにしたが、同時に、生命と自由を守るためには戦争が必要な場合もあることも説明している。モルモンも現代の預言者も、戦争が正当とされる状況について説明している(238ページにあるアルマ43:45-47の注解を参照。また242-243ページにあるアルマ51:13の注解も参照)。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長(1910-2008年)は、戦争が正当とされる場合であっても、そのような惨事を天の

御父は悲しまれると述べている。「御自分の子供たちが何世紀にもわたって情け容赦なく滅ぼし合い、自分たちの神聖な生得権を無駄にする様子を天から御覧になって、天の御父は涙を流してこられたとわたしは思います。」(『リアホナ』2003年5月号、79) ニーファイ人と司令官モロナイは、戦争と殺戮に適切な対応を執っている(238-239ページにあるアルマ43:54;44:1-2;48:11,22-23の注解を参照)。

• 第二次世界大戦時に、大管長会は以下の声明を出して、戦争に対する教会の立場を明らかにした。



「会員は政府に忠誠を尽くし、召集されたときには忠実に務めを果たさなければなりません。〔これには軍務も含みます。〕しかし教会自体は、その会員に自分たちの国に対する忠誠を十分に尽くし、愛する国を束縛から解放するよう促すことのほか、これらの政策に対して何ら責任を負っていません。

……これは全市民または臣民に要求される義務です。この義務は、『信仰箇条』に以下のように宣言されています。

『わたしたちは、王、大統領、統治者、長官に従うべきこと、法律を守り、尊び、支えるべきことを信じる。』……

教会の会員はこの原則に従って、召集されたときには国を守るために兵役に服する義務があると考えてきました。……

教会は戦争に反対であり、また反対しなければなりません。……教会は、戦争が国際間の紛争を収める義になかった手段であると考えられません。これらの紛争は関与する国家が平和裏に交渉し調整することによって収拾すべきであり、またそのような方法によって収拾が可能です。

しかし、教会員は市民であり、政府の支配下にあります。そして、教会には政府を支配する力がありません。

……したがって、国家がこれらの原則に基づいて、合憲的な法律により軍隊に加わるように要求するとき、教会の男性は、国に忠誠を尽くす国民の第一の義務としてその要求に従わなければなりません。召集に応じて指揮官に従うとき、相手側の命を奪っても、それは殺人とはなりません。また、殺人を犯した者に定められている神の罰を受けることもありません。」(ヒーバー・J・グラント、J・ルーベン・クラーク・ジュニア、デビッド・O・マッケイ、Conference Report, 1942年4月、92-94。ボイド・K・パッカー、Conference

Report, 1968 年 4 月, 34 - 35 で引用)

### アルマ 43:4 - 8 ニーファイ人の離反者がレーマン人の軍の連隊長に任命される

• ゴーラム人はかつてニーファイ人の国家に属していた。しかし、高慢のために「ゴーラム人はレーマン人となってしまった。」(アルマ 43:4) 彼らが離反する前から、ニーファイ人の指導者たちはゴーラム人がレーマン人と手を組むことを恐れていた。そうなればニーファイ人の国家が危機に陥ることは明らかであった(アルマ 31:4 参照)。このように大勢の離反者が出るのを防ぐため、アルマは率先してゴーラム人を改心させる伝道の業を行った。ゴーラム人の多くは、すでに真の信仰を捨てていたのである。中には信仰を取り戻したゴーラム人もいたが、大半は腹を立てて「レーマン人と交わり始め、レーマン人を扇動して」戦う用意をさせた(アルマ 35:10 - 11)。レーマン人の軍の指導者たちは、レーマン人よりも血に飢えていたゴーラム人とアマレカイ人を連隊長に任命して、ニーファイ人を打ち負かそうとした。

「ゴーラム人は、……ニーファイ人に対抗する手立てとして、まずレーマン人の軍勢が自分たちの地に入って来て駐留することを認めた(アルマ 43:5)。レーマン人の軍の指揮官はゼラヘムナというアマレカイ人であった。アマレカイ人はもともとニーファイ人から離反した者たちであり、ほかの離反者たちと同様、ニーファイ人に対してより深い憎しみを抱き、『レーマン人よりもっと邪悪で、殺人を好む気質を持った者たちであった……。』(アルマ 43:6) ゼラヘムナは軍の主要なポストには、すべて自分と同じアマレカイ人、または同じくらい残忍なゴーラム人を就けるように取り計らった(アルマ 43:6)。(ヒュー・ニブリー, *Since Cumorah*, 第 2 版 [1988 年], 296)

### アルマ 43:13 - 14 劣勢ながらも敵に立ち向かわざるを得なかった

• ニーファイ人から離反してレーマン人となった者は、忠実なニーファイ人とほぼ同数であった(アルマ 43:14 参照)。これほど大勢のニーファイ人がレーマン人の軍隊に加わったとしたら、ニーファイ人の軍隊は数のうえで圧倒的に不利になる(アルマ 43:51 参照。モーサヤ 25:3; アルマ 2:27, 35 も参照)。しかし、ニーファイ人は信仰に頼り、ギデオンの軍隊(士師 7 - 9 章参照)やエリシャ(列王下 6:15 - 23 参照)、ベニヤミン王の軍隊(モルモンの言葉 1:14 参照)、アルマ(アルマ 2:27 - 35 参照)の時代と同様、数のうえでは圧倒的に不利な戦いの中で神が力を貸してくださると信じていた。

### アルマ 43:15 - 54 ニーファイ人を守るために信仰と戦略を用いた司令官モロナイ

• 司令官の任にあったモロナイは、自分の力と主の力に頼ってニーファイ人を守った。アルマ 43 章は、司令官モロナイがいかに優れた判断力を使いながら神の勧告に従ったかを示す一例である。モロナイは各兵士に改良された武具を身に付けさせ(19 - 21 節参照)、戦いに行く前に預言者に助言を求めた(23 - 24 節参照)。

「レーマン人の軍事行動は、アマレカイ人とゴーラム人の指揮官に率いられていた。彼らはニーファイ人の軍の機密や戦闘方法を知っていたので、どんな指揮官よりもはるかに有利な立場にあった。しかし、司令官モロナイはさらにうわてであった。初めからモロナイは先見の明を持ち、当然レーマン人の軍隊の最初の標的になるはずの緩衝地帯ジェルションを守っていた(アルマ 43:22)。モロナイは守備軍の主力をここに置いていたが、預言者から助言を受けた使者が戻って来ると、レーマン人の軍隊は遠くではあるが防備の手薄なマンタイの地を攻撃しようとしていることが分かった。これは予想外のことであった(アルマ 43:24)。モロナイは直ちに軍の主力をマンタイの地に移し、そこに住む人々をレーマン人の来襲に備えさせた(アルマ 43:25 - 26)。

レーマン人の動きについて密偵<sup>せつこう</sup>と斥候<sup>せつこう</sup>から逐次報告を受けていたモロナイは、わなを仕掛けて、敵がシドン川を渡っているときに不意を突くことができた(アルマ 43:28 - 35)。(ヒュー・ニブリー, *Since Cumorah*, 297 - 298)

司令官モロナイは最善を尽くしていたため、主の恵みを期待することができた。モロナイは恐らく当時の最も優れた戦略家であったが、預言者の勧告に従うという謙遜な一面も見せている。この謙遜さがあったために、司令官モロナイは主の手に使われる有力な働き手となったのである。

### アルマ 43:18 - 22, 37 - 38 今日<sup>こんにち</sup>のわたしたちにはどのような武具があるだろうか

• 司令官モロナイは軍に身を守る武具を支給し、敵との戦いで大きな成果を上げた(アルマ 43:37 - 38 参照)。ハロルド・B・リー大管長(1899 - 1973 年)は、この節を今日のわたしたちに当てはめる方法の一つを説明している。

「人間の体には、<sup>やみ</sup>闇の力によって最も攻撃を受けやすいと使徒パウロが悟って語った、4つの部分があります。徳と純潔を象徴する腰。行動を象徴する心臓。人生の目標または目的を象徴する足。そして最後にわたしたちの思いを象徴する頭です。

……わたしたちは真理の帯を腰に締めなければなりません。真理とは何でしょうか。主が言われたように、真理とは現在あるとおりの、過去にあったとおりの、また未来にあるとおりの、物事についての知識です〔教義と聖約 93：24〕。……『真理の帯を腰に締めなければならぬ』と預言者は語っています。

次に心臓ですが、どのような胸当てで人生におけるわたしたちの行動を守ればよいのでしょうか。正義の胸当てで心臓を覆うのです。真理について学んでいれば、善悪を判断する基準があります。そうすれば正しいと分かっている事柄によって自分の行動を測ることができます。わたしたちの行動を覆う胸当ては正義の胸当てです。

わたしたちの足を守るものは何でしょうか。すなわち、人生におけるわたしたちの目標や目的を評価するものは何でしょうか。……『平和の福音の備えを足にはき……なさい。』(エペソ 6：15 - 16) ……

最後に救いのかぶとです。……救いとは何でしょうか。救いとは救われることです。何から救われるのでしょうか。死と罪から救われるのです。……

さて、ここで使徒パウロは、……武器に身を固めた者の片手に盾を持たせ、他方の手に剣を持たせました。この盾と剣は当時の武器でした。この盾は信仰の盾、剣は御霊の剣、すなわち神の言葉です。信仰と、神の言葉を記した聖文の知識以上に強力な武器をわたしは思いつきません。このような武器と武器で身を固めた人は、敵に立ち向かう備えができています。』(Feet Shod with the Preparation of the Gospel of Peace, Brigham Young University Speeches of the Year [1954 年 11 月 9 日], 2 - 3, 6 - 7。エペソ 6：13 - 17；教義と聖約 27：15 - 18 も参照)

#### アルマ 43：23 - 25

司令官モロナイが預言者に助言を求めたのはなぜか。  
どのような方法でわたしたちは預言者から  
助言を受けることができるか。

アルマ 43：23 - 25 預言者に従うことによって得られる祝福

• 預言者に助言を求め、それに従おうとした司令官モロナイは、多くの戦いで勝利を取めた。今日の人生の戦いにも、預言者に従うことによって打ち勝つことができる。

スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985 年）は、わたしたちが預言者に従わなければならない理由を強調している。「預言者、聖見者として支持した人々と、その他の幹部の兄弟たちの言葉に従おうではありませんか。わたしたちの永遠の命はそれにかかっているからです。」(『聖徒の道』1978 年 10 月号, 123)

#### アルマ 43：45 - 47 「血を流してでも」

• 人の命は神聖なものである。罪のない者の命を奪うことは、「主の目から見て忌まわしい行い」である (アルマ 39：5)。ただし、自分自身や家族、自由、宗教、国家を守るために人の命を奪うことは、正当とされる場合がある。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、戦争と血を流す行為について理解できるように説明している。

「ニーファイ人とレーマン人の中で戦争が激しくなったときのことにについて、記録には次のように書かれています。『ニーファイ人はもっと良い動機に励まされていた。彼らは……権力のため〔に戦ったのでは〕なく、自分たちの家と自由と、妻子と、自分たちのすべてのもののために、特に礼拝の儀式と教会のために戦っていた。』

彼らは、神に義務を負っていると感じていたことを行っていたのである。』(アルマ 43：45, 46)

主はニーファイ人に次のように勧告されました。『血を流してでも自分たちの家族を守りなさい。』(アルマ 43：47) ……

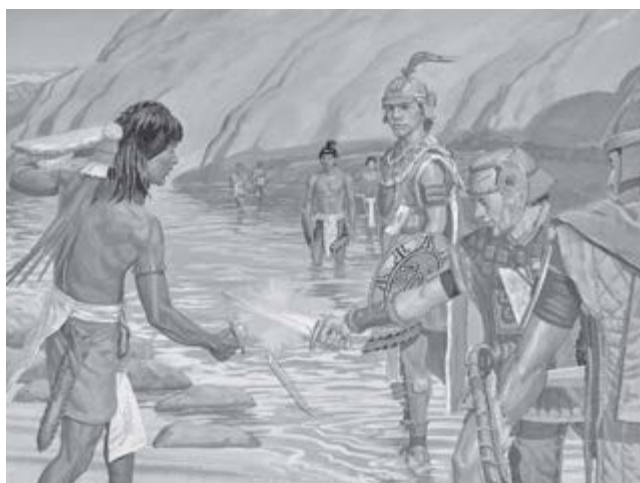
ほかの文書からも、国家が家族と自由のために独裁政治や脅威、抑圧に対して戦うことが正当とされる、あるいはむしろそうする義務が生じる時や状況があることは明らかです。……

……わたしたちは……自由を愛する民であり、自由が危機にあるときにはいつでもすべてをささげてそれを守ります。わたしは軍服姿の男女が自分たちに課せられた合法的な義務を実行するときに、その政府の代理人として神が彼らに責任を負わせるようなことはなしないと信じています。さらに、もしわたしたちが悪と抑圧の力との戦いに参加する人々の道を妨げたり遮ったりしようとするなら、神はわたしたちに責任を負わせられることでしょう。』(『リアホナ』2003 年 5 月号, 80)

アルマ 43：54；44：1 - 2；48：11, 22 - 23 モロナイは「流血を喜ばない人であった」

• 司令官モロナイは、国を守るために人の命を奪うことが正当とされる場合であっても、「流血を喜ばな〔かった。〕」(アルマ 48：11) モロナイは長年にわたって不本意ながらレー





ジェリー・トンブソン、© IRI

マン人と戦っていたのである（アルマ 48：22 参照）。戦うときには、敵方を含むすべての人に対して慈愛を持っていた。司令官モロナイができるかぎり多くの人の命を守るために途中で戦いをやめたという記述は一度ならず出てくる（アルマ 43：54 - 44：1 - 2；55：19 参照）。命を奪うときは、不承不承<sup>ふしょう</sup>、悲しい気持ちで行った。「神にお会いする用意ができていない……同胞を、……この世から永遠の世に送り込むことになる」ためである（アルマ 48：23）。司令官モロナイは、神と交わした聖約を守った人は死んでも「主イエス・キリストによって贖われる」ので「喜びながら」この世を去ったと固く信じていた（アルマ 46：39）。

読者の中には、主の聖約を守ることを大切にしている人がなぜ戦争に加担するのかと疑問に思う人がいるかもしれない。モロナイは「流血を喜ば〔ず〕」、敵に立ち向かうのでなければ、すなわち自分の命を守るためでなければ、決して剣を振り上げないようにと教えられていたと、モルモンが書き記したのは、そのような疑問が生じることを考えてのことであったのかもしれない（アルマ 48：11, 14）。

### アルマ 45 章の挿入文 「ニーファイの民……についての話」

• アルマ 45 章の概要の前にある挿入文は、記録の原本に記載されていたものの一部である（さらに詳しい説明は、11 ページにある「ニーファイ第一書——ニーファイの統治と務め」の注解を参照）。「次の第四十五—六十二章がそれに相当する」という言葉は、モルモン書が 1879 年版で章に分けた体裁で出版された際に追加されたものである。

### アルマ 45：17 - 19 アルマは出て行き、「消息は絶えてしまった」

• 十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老（1915 - 1985 年）は、「御霊によって取り上げられた、すなわち、

……主の手によって葬られた」という言葉は、アルマが身を変えられたことを示唆していると説明している（アルマ 45：19）。「モーセとエリヤ、息子アルマは身を変えられた。モーセは死んで、主の手によってだれも知らない墓に葬られた」という旧約聖書の記述は誤りである（申命 34：5 - 7）。『主の手によって葬られた』という記述が身を変えられたことを象徴的に意味しているのであれば、モーセが葬られたというのは正しい。しかし、アルマが『御霊によって取り上げられた』とするモルモン書の記録では、『聖文には主がモーセを御自分のもとに受け入れられたと述べられているので、わたしたちは主がアルマも霊にあって御自分のもとに受け入れられたと考えている』と述べている（アルマ 45：18 - 19）。ニーファイ人が真鍮<sup>しんちゅう</sup>の版を持っており、真鍮の版は『聖文』であって、その中にモーセが身を変えられたという記述があったことを忘れてはならない。エリヤについては、『火の車と火の馬があらわれて、……つむじ風に乗って天にのぼつ〔て〕』取り上げられた話が、旧約聖書に華々しく描かれている（列王下 2 章）。」（*Mormon Doctrine*, 第 2 版〔1966 年〕, 805）

### アルマ 46 - 50 章 邪悪な指導者と義にかなった指導者の違い

• モルモンは、アマリキヤと司令官モロナイの明らかな違いを分かりやすく述べている（アルマ 48：7；49：25 - 28 参照）。アマリキヤは「神がニーファイ人に与えられた自由の基……を損なわせようとし」、司令官モロナイは、それを守ろうとした（アルマ 46：10）。

権力の座にのし上がるアマリキヤのような悪人は、世の標準から見ると一時的には栄えるかもしれないが、最終的には自分と自分に従う者に破滅をもたらす。これに対して、司令官モロナイのような指導者は、人々に気高い望みを抱かせ、最後には邪悪なたくらみを打ち砕く。次の表は、モロナイとアマリキヤの違いを明確にしている。

司令官モロナイ	アマリキヤ
「民の声」とさばきつかさたちによって司令官に任じられた（アルマ 46：34。43：16 も参照）。	欺瞞 <sup>ぎまん</sup> と偽りによって権力を得た（アルマ 47：1 - 35；48：7 参照）。
民に義にかなった行いをするよう勧め、神と聖約に忠実になるよう教えた（アルマ 46：12 - 21；48：7 参照）。	憎しみを駆り立て、悪口を言うことによって民を扇動した（アルマ 48：1 - 3 参照）。

司令官モロナイ	アマリキヤ
自分の国が自由であり、束縛の状態にないことを喜んだ(アルマ48:11 参照)	民の自由を損なわせようとした(アルマ46:10 参照)。
<sup>はらから</sup> 同胞を愛し、「民の幸いと安全のために大いに働いた……。」(アルマ48:12)	「自分の民の血など気にもかけ[ず]」、利己的な望みを遂げようとした(アルマ49:10)。
義にかなった原則に従って行動する人。自分の家族や命、自由を守るためであれば決して剣を振り上げてはならないとニーファイ人に教えた(アルマ48:10, 14 参照)。	激情に支配されている人。強引に征服するよう民に教え、滅ぼすことを誓った(アルマ49:13, 26 – 27 参照)。
命を守ってくださるよう <sup>けん</sup> 謙遜に神に祈り求めた(アルマ48:16 参照)。	神をのろい、敵を殺すと誓った(アルマ49:27 参照)
争いや離反をなくそうと努めた(アルマ51:16 参照)。	争いや離反を起こそうと努めた(アルマ46:6, 10 参照)。

#### アルマ46:12 – 13

自分たちの家庭と自由、宗教上の権利を守ることは、なぜ厳粛な義務か。わたしたちは自分の家庭を悪の力から守るためにどんなことができるか。

#### アルマ46:12 – 15, 36 自由の旗

・義にかなったことを行うよう人に勧めるのは勇気の要ることである。エズラ・タフト・ベンソン大管長は、自由の旗を掲げた司令官モロナイの行動がいかに重要なものかについて度々教えた。「積極的な参加と奉仕により、地域社会の向上に努めてください。市民としての責任を忘れてはなりません。『悪が勝利を収めるためには、義人が何もしなければいい。』(エドモンド・パーク) …… 神から授かった自由を擁護するために、意義あることを行ってください。」「(『聖徒の道』1988年6月号, 51)

ベンソン大管長はさらにこう教えている。

「その神聖な書物、モルモン書の中には、自由を求める大

規模で長期にわたる戦いが描かれています。また、民が慢心に陥ることや、援助者を名乗る者が現れると、いとも簡単に自由を手放してしまうことがよくあることも書かれています。……

……モロナイは、その言葉がモルモン書に記録されている預言者たちと同じように、アメリカの地を選ばれた地、自由の地であると言っています。モロナイは、『自分たちの自由を守[る]』ために進んで戦う人々を戦場で指揮しました。

そして、こう記録されています。『……彼は、……全地にあるすべての塔の上に自由の旗を掲げさせた。モロナイはこのようなニーファイ人の中に自由の旗を掲げさせた。』(アルマ46:36)

これこそ、現代のわたしたちに必要なことです。アメリカ全土に自由の旗を掲げるのです。

この出来事があったのは、紀元前70年ごろです。この神聖なモルモン書には1,000年間の出来事が記録されていますが、戦いはその全期間にわたって続いています。つまり、自由への戦いは終わることがなく、現に今もなお、わたしたちはその戦いを戦っているのです。」(Conference Report, 1962年10月, 14 – 15)

#### アルマ46:23 – 27 ヨセフの衣についての預言

・モロナイが自分の衣を裂いて作った「自由の旗」は、エジプトのヨセフの衣の切れ端が保存されていることを連想させるものであった。ニーファイ人はヨセフの子孫の残りの者であって、主に仕えるかぎり守られると、モロナイは宣言している(アルマ46:22 – 24 参照)。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長(1876 – 1972年)は、ヨセフの衣の切れ端が保存されていることが何を象徴するのか、その預言は今日どのような形で成就しているかについて、次のように語っている。

「わたしたちは、ヨセフの着ていた長そでの衣が裂かれる



© クラーク・ケリー・ブライズ



© 1994 ロバート・バレット

ことに一つの預言があったと教えられている。その衣の一部は保存された。ヤコブは死ぬ前に、衣の切れ端が保存されているように、ヨセフの子孫の一部の者は守られると預言した〔アルマ 46：24 参照〕。

現在レーマン人の中に見られるそのヨセフの子孫の残りの者は、最終的に福音の祝福にあずかる。彼らは国々から集められる残りの者たちとともに一つとなり、永遠に主から祝福を受けるのである。』(The Way to Perfection [1970 年], 121)

### アルマ 47：36 離反と争い

• モルモン書には、教会に所属する者が「離反」すると心がたかたかになり、「主なる神をすっかり忘れてしま〔う〕」という警告が繰り返して出てくる(アルマ 47：36)。

十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老(1926 - 2004 年)は、同じ問題が今日もあると警告している。離反者たちは自分のプライドのために教会を批判するようになるのである。「公式であれ非公式であれ教会を離れたものの、教会にかかわらないではいられない離反者たちがいる。普通は世の人々を喜ばせたいがために、幹部の兄弟たちを批判したり、批判とまではいかなくともさげすむような言動を取る。神の箱を支えようとするだけでなく、時には激しく揺さぶろうとするのである。そのような人はたいいていの場合、忠実な人々と同じ真理の原則を学んでいるのだが、離反する方向に進んでしまう(アルマ 47：36 参照)。高慢になって心がかたかたになるのである(ダニエル 5：20 参照)。』(Men and Women of Christ [1991 年], 4)

• 十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老は、争いと離反の結果について説明している。

『「争いの心を持つ者はわたしにつく者ではな〔いと主は言われる〕。』……(3 ニーファイ 11：29 - 30)……

世界中の主の聖徒たちは、……論争が危険な状態を招くことを知っているのです。モルモン書には次のような警告があります。

『これらの離反者たちは、……離反後間もなく、レーマン人よりもかたかたで悔い改めない者、また彼らよりも野蛮で邪悪、残忍な者となってしまう、レーマン人の言い伝えを受け入れ、怠惰やあらゆる好色に身を任せ、主なる神をすっかり忘れてしまったのである。』(アルマ 47：36)

論争は民の間にいかに大きな分裂を招くことでしょう。ささいな行為が大きな結果を招くのです。地位や状況にかかわらず、だれも争いの引き起こす恐るべき結果から影響を受けずにはられません。……』(『争い』という害毒)『聖

徒の道』1989 年 7 月号, 70, 72)

### アルマ 48：1 - 10 クリスチャンの原則を支持する

• 真にキリストに従う者は、時にはモロナイの民のように、「自由と土地、妻子、平和」を守るために立ち上がらなければならない(アルマ 48：10)。モロナイは自分の民が「敵からクリスチャンの大義と呼ばれているものを保つことができるようにした」のである(アルマ 48：10)。

今日、世の中に高まる悪の風潮について、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は次のように主張している。「わたしたちは正義と良識を守り、自由と文明を守るために立ち上がらなくてはならない時があります。それは、モロナイが妻子と自由の大義を守るために人々を結集させたのと同じです(アルマ 48：10 参照)。』(『リアホナ』2002 年 1 月号, 84)

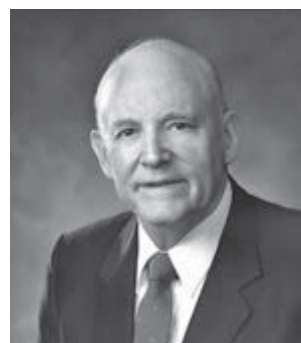
### アルマ 48：10 - 18

司令官モロナイを指導者として成功に導いた資質にはどのようなものがあるか。

### アルマ 48：19 「モロナイに劣らず……よく働いた」

• ヒラマンが「モロナイに劣らず……よく働いた」とは、どういう意味だろうか。ハワード・W・ハンター大管長(1907 - 1995 年)は、だれもが目立つ召しを受けるわけではないが、義にかなった奉仕はすべて同じように神に受け入れられると教えている。

「ヒラマンはモロナイほど人目を引く地位にはいませんでしたが、劣らずよく働きました。つまり、モロナイと同じように役に立ち、価値ある働きをしたのです。……



だれもがモロナイのように毎日朝から晩まで同僚から賛辞を受けるようになるわけではありません。たいいていの人にはやって来て自分の仕事を地道に行くとそっと去って行く、あまり目立たない存在です。そのような働きを孤独に感じたり、味けないとかあまり見栄えがしないと思ったりする

人がいるかもしれません。そのような人にわたしは申し上げます。あなたは、最も目立つ働きをする同僚に劣らずよく働いています。あなたも神の軍勢の一員なのです。



例えば、末日聖徒にふさわしい家庭で心を込めて人知れず奉仕する父親や母親のことを考えてみてください。福音の教義クラスの教師や初等協会の音楽指揮者、スカウトマスターや扶助協会の訪問教師はどうでしょうか。彼らの奉仕は大勢の人に祝福を与えていますが、名前が公表されてもはやされることもなければ、全国ネットのメディアで採り上げられることもありません。

何万人もの人目につかない人々が、日々わたしたちに機会と幸せを与えているのです。聖文にあるように、彼らは、新聞の第1面に載るような人に少しも『劣らず……よく働』いています。

歴史的な注目や同時代の人々の関心は、特定の個人に向けられるものであって、不特定多数には向けられないことが非常に多いのです。」(“No Less Serviceable,” *Ensign*, 1992 年 4 月号, 64)

### アルマ 49 - 50 章 ニーファイ人の町の防備

●モロナイの靈感と先見の明で町の防備が固められ、これが戦いの勝敗を分かちこととなった。町の防備を固めたおかげで、数千人のニーファイ人の命が守られたのである。わたしたちは悪の攻撃や「敵対する者の……火の矢」に立ち向かうために義になかった思いと行いで生活を守ることによって(1 ニーファイ 15:24。ヒラマン 5:12 ㊦も参照)、この教訓を生かすことができる。主は、わたしたちがへりくだって主を求めるならば、わたしたちの弱さを示し、「弱さを強さに変えよう」と約束してくださっている(エテル 12:27 ㊦)。下の表は、ニーファイ人の町の防備をどのようにわたしたちの生活に当てはめることができるかを、幾つか例を挙げて説明したものである。

ニーファイ人の防備の仕方	わたしたちができる防備
比較的防御の弱いところを強化した(アルマ 48:9 参照)。	自分の生活の弱い部分を強化する。
ニーファイ人はこれまでまったく知られていなかった方法で敵に対する備えをした(アルマ 49:8 参照)。	悪魔の策略に立ち向かうために、これまでにはなかったほど備えをする。
ニーファイ人は弱かった町を堅固にした(アルマ 49:14 参照)。	キリストのもとに来るならば、キリストはわたしたちの弱さを強さに変えることができる(エテル 12:27 参照)。

ニーファイ人の防備の仕方	わたしたちができる防備
ニーファイ人は敵に勝る力を与えられた(アルマ 49:23 参照)。	忠実であって主に頼るならば、主は敵に勝る力をわたしたちに与えてくださる。
ある程度の成功を収めた後も、ニーファイ人は準備を整えるのをやめなかった(アルマ 50:1 参照)。	誘惑や試練を無事に克服してからも防備を緩めず、引き続き堪え忍び、よく注意して、敵に打ち負かされないよう常に祈る(アルマ 13:28 参照)。
ニーファイ人はやぐらを建て、遠くから敵が見えるようにした(アルマ 50:4 参照)。	現代の見張り人である預言者を信頼するならば、将来に賢く備えることができる。

### アルマ 51:13 武器を取って国を守る

●わたしたちは市民として国の法律に従う。ラッセル・M・ネルソン長老は、国を守るために武器を取る義務が生じたときのために、以下の勧告を与えている。

「神は実際にわたしたちの父ですから、人は実際に兄弟です。しかしながら、聖文には争いと戦いの物語が随所に見られます。侵略による戦争を強く非難する一方で、自分たちの家族と自由を守るという市民の義務を認めているのです〔アルマ 43:45 - 47; 46:11 - 12, 19 - 20; 48:11 - 16 参照〕。……この教会の会員は多くの国々で兵役に召集されることでしょう。『わたしたちは信じる。すなわち、政府は人間のために神によって設けられた。そして、神は人々に、政府に関する彼らの行為に対して責任を負わせ、人々は社会の福利と安全のために法律を制定し、施行する責任を負う。』〔教義と聖約 134:1〕



第二次世界大戦において教会員が相手国と戦うことを余儀なくされたとき、大管長会は次のことを確認しました。『政府はその国民または被統治者の統制に対して、彼らの政治的な福利に対して、および国内外の政策を進めることに対して責任を負っています。……しかし教会自体は、その会員に自分たちの国に対する忠誠を十分に尽くすよう促す

ことのほか、これらの政策に対して何ら責任を負っていません。』〔ジェームズ・R・クラーク編, *Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*, 全 6 巻 (1965 - 1975 年), 第 6 巻, 155 - 156〕」(『リアホナ』2002 年 11 月号, 40)

### 理解を深めるために

- 自分を滅ぼそうとする敵から身を守るために、あなたが必要とする最も大切な霊的な防御にはどのようなものがあるだろうか。
- 戦地で司令官モロナイのように務めを果たすために、末日聖徒の兵士にはどのようなことができるだろうか。

- 勇敢な指導者は、国や州、地域社会、家族にどのような影響を与えるだろうか。

### 割り当ての提案

- だれもがモロナイのように目立つ存在になるわけではない。そこで、父親と母親から受けた価値ある奉仕について説明する。それに加えて、日曜学校の教師や初等協会の音楽指揮者、スカウトマスターや扶助協会の訪問教師の大切さを説明する。または教会の召しを一つ選んでその大切さを説明してもよい。
- 自分の生活の中で弱い部分を書き出し、悪に対抗するためにそれを「防御」する計画を書き出す。